

## 1. 目標

### 包括目標(Goal)

1. リハビリテーション医学が対象とする各種疾患の病態を学習、理解するとともに、担当患者が抱える障害の評価を行い、予後や生活環境、心理面に配慮しながら治療計画を立てることができる。
2. 基礎疾患に対する適切な医学的管理を行いつつ、リハビリテーション治療の目的や効果、リスクなどを理解した上で、上級医の指導の下、リハビリテーション治療の一部を実施できる。

### 個別目標 (Objectives)

1. 患者が抱える障害について国際生活機能分類に基づいて分類整理し、患者の予後や取り巻く環境を考慮しつつ、評価および治療計画を立てることができる。
2. 基本的な身体診察に加えて、リハビリテーション治療に必要な検査や評価を患者ごとに適切に選択し実施できる。
3. 個々の患者における治療上のリスクを適切に認識し、その管理を行うことができる。
4. 摂食嚥下障害や排尿障害について指導医のもと、必要な検査や評価を行い治療の一部を実施できる。
5. 看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、MSW (medical social worker) など各職種の役割を理解し、チーム医療を実践できる。
6. 患者の病院や施設、家庭、社会生活における QOL を考慮し、ゴールを予測できる。
7. 介護保険制度などの代表的な社会福祉制度の導入や活用の方法を理解する。
8. 在宅復帰にあたっての家屋環境の評価や改修、社会サービスの内容、調整方法などについて理解する。
9. 合併疾患や生活習慣病の管理を実施することができる。
10. 各種補装具治療の意義や効果を理解し、その処方を指導医とともに行うことができる。

## 2. 方略

1. 新患カンファや教授回診での担当患者のプレゼンテーション。
2. 診察による障害の評価、リハ治療効果の評価、介入方法の検討を行う。
3. 機能診で神経身体診察法を習得する。
4. 嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を指導医とともに実施する。
5. 神経筋電気刺激や超音波ガイド下でのフェノールによる神経ブロックやボツリヌス注射を指導医とともに実施する。
6. 療法士や指導医とともに促通反復療法を中心とした治療を一部実施する。
7. 抄読会で英語論文の詳説を行う。
8. 担当患者についての多職種定期カンファレンスおよび退院前カンファレンスへ参加する。

## リハビリテーション科 臨床研修プログラム

9. 装具診で装具処方時のプレゼンテーションおよび装具完成時の適合チェックを行う。
10. 指導医とともに実習中の学生に対する指導を行う。

### 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
集合時間	8時30分	8時30分	8時30分	8時30分	8時30分
場所	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
午前	病棟業務	多職種カンファ	病棟業務	病棟業務	多職種カンファ
		病棟業務			病棟業務
午後		新患カンファ 教授回診 退院カンファ		機能診	装具診
	抄読会			抄読会	

病棟：回復期リハビリテーション病棟（歯科病棟4階）、B棟9階リハビリテーション室

医局：共同利用棟1F リハビリテーション科医局

### 3. 評価

1. EPOC 2で評価（形成的評価）
2. 教授回診、新患カンファ、症例検討会における担当症例プレゼンテーションに対する評価
3. 機能診における神経運動系診察に対する評価
4. 抄読会における発表に対する評価
5. 病棟業務、リハ治療の実施に対する評価

### 4. 指導医（指導医養成講習会を受講した医師）

大瀨倫太郎、横山 勝也